

事例 2 ICT端末を活用し多様な意見を共有することで、価値理解の深まりを図る事例

○学年 第6学年

○事例のポイント

- ①お気に入りの筆箱を友達に「うざい」と言われてショックを受けるも、笑ってごまかしてしまふ主人公の複雑な心の内について、ICT端末を活用して考える。
- ②「言葉を使うときに大切なこと」についてICT端末を活用することで多様な考えを共有し、道徳的価値の理解を深める。
- ③児童の思いを大切にしながら発問をつなぎ、ねらいとする道徳的価値に迫れるようにする。（ICT端末を操作する時間と話し合う時間の配分に配慮する。）

ICTを活用した主な学習場面

展開（話し合い）・振り返り

ICT活用の利点

- ①児童が友達の考えを簡単に共有でき、多面的・多角的に考える一助になる。
- ②教師が児童の学習状況や各自の考えを把握しやすくなる。
- ③振り返りを蓄積することで、児童は自己の学びを振り返り、自己の生き方について深く考えられるようになり、教師は評価に生かすことができる。

1 主題名 言葉づかいは心づかい 内容項目 B 礼儀

2 ねらい 言葉遣いの大切さと難しさを理解し、相手の気持ちを考えて真心をもって接しようとする態度を育てる。

教材名 ちょっとひどくない？

（出典：「彩の国の道徳『夢に向かって』埼玉県教育委員会」）

3 主題設定の理由

(1) ねらいや指導内容について

本主題は、第5学年及び第6学年の内容項目「時と場をわきまえて、礼儀正しく真心をもって接すること」をねらいとしている。これは中学年の「礼儀の大切さを知り、誰に対しても真心をもって接すること。」を発展させたものであり、中学校の「礼儀の意義を理解し、時と場に応じた適切な言動をとること。」へつながっていく。礼儀は、相手の人格を尊重し、相手に対して敬愛する気持ちを具体的に示すことであり、心と体が一体となって表れてこそ、そのよさが認められる。形だけでなく、心のこもった態度で接することでよい人間関係を築けることを理解する必要がある。

この時期の児童は、礼儀の大切さや礼儀の形は理解しつつも、悪気のないちょっとした言葉遣いや言葉の足りなさから誤解が生じたり、あまり考えずに言葉を発してトラブルになったりすることが増えてくると考えられる。本時では、言葉一つで相手を大きく傷つけてしまう可能性があることに気付き、言葉に気を付けて礼儀正しく真心をもって接しようとする態度を育てたい。

(2) これまでの学習状況及び児童の実態について

大部分の児童が「相手の気持ちを考えて、正しい言葉遣いをする」ことの大切さを理解している。しかし、友達同士の会話では、乱暴な言葉遣いをし合うことを楽しんだり、時や場、相手を考えない言葉遣いで周囲の雰囲気を悪くしてしまったりすることがある。自分では気付かず

に言葉で相手を傷つけてしまうことから、小さなトラブルが起こることもある。

前期の「礼儀」の学習では、挨拶をしているのに「礼儀がなっていない」と言われて落ち込む主人公の心の内を話し合うことで、「本当の礼儀」とは形だけでなく、相手のことを考えることが大切であると学んだ。

本教材では、仲良しであるがゆえに軽はずみに発した言葉が時には相手を大きく傷つけてしまうことに気付かせ、言葉遣いの大切や難しさを考えさせたい。また、よい人間関係を築くためには、心のこもった接し方が大切であり、その中で言葉は重要な役割を果たしていることを理解し、真心と敬意をもって接していこうとする態度を育てたい。

(3) 教材の特質や活用方法について

本教材は、主人公が「うざい」という言葉をよくない言葉と分かっていながらも使ってしまうところから始まる。そして、いざ自分が言われてみると、傷つく言葉だと分かり、言葉の大切さに気が始まるという内容である。

本学級の実態を受け、主に次の場面を話し合うことにする。

①主人公が「うざい」という言葉を使う場面

ここでは、よくない言葉と分かりながらも、友達と一緒に「うざい」と言うことで更に仲良くなれた気がすると思う主人公の心を考えられるようにする。

②新しいペンケースを「うざい」と言われた場面

ここでは、「うざい」と言われて嫌だったのに、笑ってごまかす主人公の心の内を話し合い、自分も相手のことを考えず、安易に「うざい」と言ってしまったことに気付けるようにする。

③友達が「うざい」と言われている場面

ここでは、「うざい」と言われてもくじけずに注意をし続けてくれた友達への主人公の心の変化を感じ取らせ、相手を思いやった言葉遣いの大切さについて考えられるようにする。

4 学習指導過程

段階	学習活動と主な発問	予想される児童の発言	・指導上の留意点 ☆評価の視点
導入	1 言われて嫌だなと思う言葉はどんな言葉ですか。	・ばか ・消えろ ・うざい など	・問題意識をもてるように、自分たちのまわりには言われて嫌な言葉がたくさんあることに気付かせる。
T:言葉には大きな力がありそうですね。 今日は、言葉を使う時に大切なことについて考えてみましょう。			
展開	2 教材の登場人物や条件・状況を知る。		・教材への関心を高め、話し合う上でポイントとなる部分を確認するために、条件・状況を簡単に整理する。
〈登場人物〉 主人公「私」、「美代子」「志保」「節子」 〈条件・状況〉 ・「私」と3人は小さいころからの仲良し。 ・同じクラスでよくおしゃべりをしている。			
	3 教材「ちょっとひどくない？」の読み聞かせを聞き、話し合う。		・自分事として考えられるように、主人公の気持ちに自分を重ね合わせながら聞けるようにする。

T:どんな言葉が出てきましたか。

C:「うざい、うざい！」

T:この言葉は、最初にみんなに聞いた時にも出てきましたね。

みんなは言われて嫌だって言っていたけど、主人公はこんな気持ちになったと言っていましたね。

(→次の発問につなげる)

(1)「同じ言葉を使っただけなのに、友達とさらに仲良くなれたような気持ちになった」とはどういうことでしょうか。

- ・同じ気持ちだと知って嬉しい。
- ・一緒に言うと盛り上がる。
- ・これからも仲良くできそう。

- ・人は軽い気持ちでよくない言葉を使ってしまうことに気付けるように、「うざい」という言葉を友達と使い、楽しさを感じている主人公に共感できるようにする。

人間理解を深める話合い

T:「うざい」と言う時、抵抗はなかったですか。

C:みんなが使っているから抵抗はなかったと思います。

C:盛り上がっている様子なので、あまり考えずに軽い気持ちで言っているのだと思います。

T:「みんな使っている」「軽い気持ち」なのですね。では、言われるとどんな気持ちになるのでしょうか。

(→次の発問につなげる)

(2) ペンケースを「うざい」と言われて、「私」はどんな気持ちでしょうか。

- ・ショック。
- ・悲しい。
- ・何でそんなこと言うの。

- ・「うざい」と言われて嫌な気持ちになっている「私」の心情に共感し、考え方の立場を明確にした話合いを深められるようにする。

C1:何でそんなことを言うの。

C2:楽しみにしていたのにひどい。

T:嫌な気持ちになったのですね。

その気持ちを伝えたいとは思わなかったのでしょうか。

C3:伝えたいけど・・・。

T:伝えたいけど・・・。

C3:なんか、空気が悪くなりそうだし・・・。

C2:でも言わないと、また言われるよ。

T:なるほど・・・みんないろいろな意見があるみたいですね。では、ロイロノートに意見を出してみましょう。

- ・伝えたい気持ちと伝えられない気持ち、「私」の心の中を考えましょう。

「伝えたい」

- ・せっかく買ったのに。
- ・嫌だから自分の気持ちは伝えたい。

「伝えられない」

- ・気まずい。
- ・友達との関係が悪くなるかもしれない。
- ・自分も言っていた。

- ・授業支援クラウド（ロイロノート）を活用し、「私」の複雑な心の中とその理由を可視化することで、様々な思いを共有し、多面的・多角的に話し合えるようにする。
- ・全児童が話合いに参加できるように、3人1組で意見交流ができるようにする。
- ・全体での話合いでは電子黒板に各自の考えを掲示し、全員に伝

ICT 端末を活用した 多様な考えを共有する話し合い

伝えたい気持ちを赤色、伝えられない気持ちを青色で表す。どうしてそのように表したのか理由も書き込むことで、話し合いを深める。

うざいと言われた私の気持ちは？

嫌だという気持ちを

伝えたい 伝えられない

理由

言いたい気持ちもあるけど、そのメンバーから節子が言われたように「うざい」って言われて仲間外れにされたくないし、自分も言ってたから。

うざいと言われた私の気持ちは？

嫌だという気持ちを

伝えたい 伝えられない

理由

いくら友達でも自分の好きなキャラクターをばかにされたら嫌だから。伝えないといつまでも言ってくる。気まずい関係が続いちゃう。言いたい。

事例のポイント①・③

道徳 ちょっとひどくない？

うざいと言われた私の気持ちは？	うざいと言われた私の気持ちは？	うざいと言われた私の気持ちは？	うざいと言われた私の気持ちは？	うざいと言われた私の気持ちは？
嫌だという気持ちを	嫌だという気持ちを	嫌だという気持ちを	嫌だという気持ちを	嫌だという気持ちを
伝えたい	伝えたい	伝えたい	伝えたい	伝えたい
伝えられない	伝えられない	伝えられない	伝えられない	伝えられない
理由	理由	理由	理由	理由

ICT 活用の利点①・②

わるようにして、活発な意見交流を図ることで、一人一人が考えを深められるようにする。

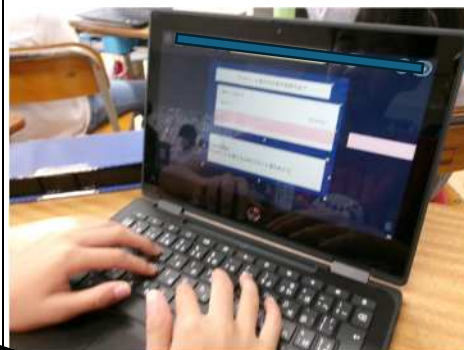
- ・ どちらの立場でも「うざい」と言われたことに傷つく主人公の気持ちに共感させるとともに、主人公自身も軽い気持ちで「うざい」と言っていたことに気付かせるようにする。

☆「うざい」と言われたときの主人公の気持ちに自分を重ねて話し合い、言葉遣いに関わる複雑な心の内を多面的・多角的に考えている。

「規律ある態度」の育成

【話を聞き、発表する】

3人組での話し合いでは、自分の考えを伝えるとともに、友達の考えを自分の考えと比較しながら聞けるようにする。



心の内をワークシートに表すことで、個々の考えが可視化できるようにする。また、理由を書くことで全体での話し合いの意図的指名につなげる。

【少人数での話し合い】

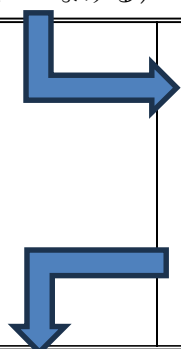
- C1：私は伝えたい気持ち大きいです。お気に入りを「うざい」って言われて嫌だったからです！
- C2：確かにその通りです。でも怒るとよくないから、「そういう言い方はやめて」ってきちんと自分の気持ちを伝えるべきだと思います。
- C3：私は主人公と同じように気持ちは伝えられないと思います。けんかをしたくないからです。
- C2：でも、きちんと伝えないと相手は分からないと思います。
- C3：確かにそうだけど、自分もちょっと前まで「うざいうざい」って言っていたし・・・
- C1：確かに・・・C2さん、少しだけ青色があるけど、それはどうしてですか？



記入したことを発表するだけにならないように、各自の意見のあと「確かに」「でも・・・」などの返しを入れるようにする。自分の考えが変わってよいことは毎回伝え、変わったことがある場合は授業支援クラウド（ロイロノート）に再提出するよう伝える。

【全体での話し合い】

- T：まずは、「伝えたい」気持ち大きいと思う人、なぜか教えてください。
- C1：普通に自分が好きなものを「うざい」と言われて嫌だったからです。
- C2：その通りです。人の好みを悪くいうのはひどいです。きちんと伝えないとまた言われてしまいます。
- T：このような意見がありますが、どうですか？
- C3：でも、私は伝えられない気持ちの方が大きいと思います。友達との関係が悪くなるからです。
- C4：「私」も節子さんに「うざい」って言っていたので、人のことは言えないと思います。
- T：「私」はなんで「うざい」って言ってたのですか？
- C4：ノリで。軽い気持ちで。
(略)
- T：自分が言われるとこんなに嫌な気持ちなのですね。そういえば、ずっと「うざい」と言われている人がいましたね。
(→次の発問につなげる)



- ・節子は私達のことを考えて言ってくれたのに、ごめんね。
- ・もう「うざい」と言うのはやめよう。
- ・私も二人に伝えようかな。

- ・電子黒板を使う場合は、これまでのスライド（5 板書計画参照）を児童に配信し、話し合いの軌跡が全児童の手元で確認できるようにする。

- T：なぜ「ごめんね」と思うのですか？
- C：あまり考えずに「うざい」と言ってしまったからです。
- T：どうして「もう言うのはやめよう」と思うのですか？
- C：言われると嫌な気持ちになるからです。
- T：では、今回考えなければいけないことは何でしょうか？
(→次の発問につなげる)

事例のポイント③

児童の思いを大切にしながら発問をつなぎ、ねらいとする道徳的価値に迫れるようにする。

展開

(3) 言葉を使う時に大切なことは何でしょうか。

- ・軽い気持ちだけで使うのではなく、よく考えてから使うことが大切。
- ・相手の気持ちを考えて使うことが大切。

・オンライン掲示アプリ (Padlet) を活用し、多様な考えを交流できるようにする。

I C T活用の利点①・②



道徳的価値の理解を深める話合い

事例のポイント②・③

T:いくつか、全体で考えてみましょう。

話し合いたい友達の意見はありますか。

C:私は「よく考えてから発言する」とは、何を考えることが大切なのか、みんなの考えを聞きたいです。

C:自分が言われて嫌ではないかを考えて発言するとよいと思います。

C:でも、自分はいいと思っていても相手にとっては嫌な場合もありますよ。

C:確かに。相手のことを考えることが必要ですね。

C:私は「ノリで悪い言葉を言わないようにする」に共感します。言ってしまったら戻せないからです。

I C T端末を活用し、多様な考えを素早く可視化し共有することで、活発な話合いを通して価値理解を深めることができる。

4 自己を振り返る。

「言葉を発するときに大切なこと」
言葉を発するうえで大切なことは相手のことを考えながら話すことなのかなと思いました。
考えながら話すのは難しいけど、話しにくいとも思うけど、それを考えながらすると他の人は傷付かないし、それを積み重ねていくことで自然とそれができるようになると思いました。だけど、僕も忘れてしまうことがあってあとからもっと気をつければよかったと思うことがあるのでこれからもこれをちゃんと意識し続けていきたいなと思いました。

I C T活用の利点③

道徳 言葉を発するうえで大切なこと

僕は、言葉を発するうえで自分が相手の立場に立って考えることや相手が傷つく言葉は言わないようにしているけど、その時の軽いノリで、自分でも知らないうちに言ってしまったかもしれないから、そのようなことを意識したうえで発言をしたいなと思いました。
また、「バカ」などを友達とふざけるときの軽いノリで言うことは対して悪いことじゃないと思っていたけど、今回の学習を通してまず軽いノリだとしても相手にとってはすごく嫌で、相手を傷つけてしまうことがわかったので、気をつけていきたいです。

・言葉一つで相手を傷つけてしまうことに気付かせ、よりよい人間関係を築くために、相手に対して心のこもった接し方や言葉遣いの大切さについて考えられるようにする。

・自分の生活を振り返り、今後の生き方について考えられるようにする。

☆正しい言葉を使うことの大切さを理解し、自分の使う言葉を見つめ直し、相手の気持ちを考えて心のこもった接し方をするについて考えている。

終末	5 教師の説話を聞く。		・余韻をもたせて話すことで、ねらいとする道徳的価値への考えをさらに深められるようにする。
	教師の経験に基づき、「親しき中にも礼儀あり」を紹介する。		

5 板書計画

(電子黒板に映す場合)

言葉づかい 心

ちょっとひどくない？

主人公「私」 「美代子」 「志保」 「節子」

4人は小さいころから仲良し今も同じクラス

①



「同じ言葉を使ったただなのに友達とさらに仲良く
なれたような気がした」とは？」

気持ち通じ合った
一緒 ↓ 気が合う

仲良 安心 共感 楽しい 盛り上がる

②

言葉づかい

心

③

だまって準備する節子を見て、
「わたし」はどんな気持ちでしょう？

節子はすごいな
節子にあやまりたい
もう「うざい」と言うのはやめよう
言わなきゃよかった
節子のようにになりたい

④

(黒板の場合)

言われて嫌な言葉とは？
ばか 消えろ うざい など

主人公「私」 「美代子」 「志保」 「節子」
4人は小さいころからの仲良し

ちょっとひどくない？

「うざい」と言われた「私」の心の中は？
嫌な気持ち ショック→その思いを・・・

同じ言葉を使ったただなのに
さらに仲良くなれたような気がした
とは？

節子を見つめる「私」

伝えたい

伝えられない



言葉づかい
心

6 他の教育活動との関連

- ・学校行事では、他者とよりよく関わる方法について考え、実践できるようにする。
- ・国語科では、正しい言葉遣いや言葉のもつ意味について理解を深めることができるようにする。
- ・全教育活動を通じて、言葉遣いに注意し、相手に真心をもって接することができるようにする。

7 評価の視点

【物事を多面的・多角的に話し合っている様子】

- ・主人公に自分を重ねながら話し合い、言葉遣いについて多面的・多角的に考えている。

【道徳的価値についての理解を自分との関わりで深めている様子】

- ・正しい言葉を使うことの大切さを理解し、心のこもった接し方について自分との関わりで考えている。

8 備考

(これまでの振り返りの記録)

ノート

9月9日 ○家族に対する思い 【振り返り】 自分にとって家族とは、大切にいつも協力してもらっている存在です。私も、お母さんやお兄さんのことしか考えていないと思ったことがあるけど、お母さんはどっちのことも大切してくれているから、自分も家族のことを大切にしたいと思いました。 6月24日 5月20日	9月2日 ○分かり合うために 【振り返り】 クラスでの話し合いや、道での話し合いのときは、自分のことばかりではなく、相手の気持ちもちゃんと考えて話し合うことが大切ということがわかりました。話し合いだけではなく、普段の学校生活や友達との会話でも相手のことをちゃんと考えて生活していきたいと思いました。 6月10日 5月13日	7月8日 ○ルール・マナー 【振り返り】 今日はルールとマナーの違いについて学んだ。ルールは学校などできまっていることで、マナーは当然のことみたいなきまりで守らなければいけない。今回のたばこでは、たばこを吸うことは悪くないけれど、吸きたばこやゴミ箱で吸っている人のせいでたばこのものが悪いと思われてしまうかもしれないから、みんなが気持ちよく過ごすにはルールやマナーを守ることだと思う。 6月3日 ○今日の学習で学んだこと 私は、今日の授業で、夢は努力すれば叶えることができるということを学びました。主人公はみんなに夢を応援されなくて、つらかったりもしたけれど、夢を達成することができるから自分も誰に何を言われても夢に向かって努力をしていきたいと思いました。 4月22日	7月1日 ○本当の礼儀とは？ 本当の礼儀とは、相手を大切にしようとする思いをちゃんと伝えることだと思います。気持ちのこもっていない「ありがとう」では、自分はきちんと挨拶したつもりでも心が相手に伝わらないから、気持ちのこもった「ありがとう」を言っていこうと思います。 5月28日 《6年生としての役割について考えたこと》 6年生の役割は、最高学年として学校を引っ張っていくことだと思うから、1年生のお世話をしたり、委員会や学校のために活動したり、1～5年生のお手本になれるような6年生になれるように頑張りたいと思いました。 4月15日
--	--	--	--